第 117 回日本解剖学会総会・全国学術集会（2012 年 3 月 26～28 日）シンポジウム
S14「解剖学の新時代 臨床指向型生涯教育と解剖学教員養成の取り組み」

臨床解剖学の生涯学習：対話と実証

Life-long learning of clinical anatomy, experiences of dissection and communication, and understanding of reality.

永島雅文

Masabumi Nagashima

埼玉医科大学 医学部 解剖学

Department of Anatomy, Saitama Medical University Faculty of Medicine

本学では1、2年生を対象とした統合カリキュラム「人体の構造と機能」コースで、主に生理学との連携のもと、肉眼解剖、神経解剖、組織、発生を教育している。

1年生では個体発生と系統発生をはじめ、関節運動・呼吸循環・消化吸収などの生命現象の機能原理（基幹概念）を講義する一方、「測定・可視化」演習と標本観察により、形態と機能の関連性を学習する機会を設けている。

2年生の構造系実習（肉眼解剖 72 時間）と神経系（脳実習を含め 20 時間）ユニットでは、発生・局所解剖・臨床応用の関連性を学習している。さらに臨床推論ユニット（小グループ学習 6 時間）では「麻痺」をテーマに病態生理の考え方を指導している。

6年生の講義を担当すると、臨床実習を終えた学生が解剖学の重要性を再認識していることを実感する。また夏期休暇中の「臨床解剖セミナー」に自主参加する学生は、外科医による模擬手術の供覧により解剖学の理解を深めている。

先般「今後の医学教育の方向性に関するワーキンググループ」が組織された。ここでは入学選抜、教養教育、臨床研修、大学院教育、卒業後のキャリアパスなど、広範な課題が討議され、具体的な制度設計を目標としているが、統合や連携という言葉が様々の場面で頻用される。

本講演では、解剖学と臨床医学との親密な対話の重要性を強調しつつ私自身の教育実践を紹介し、学位論文の指導・審査を含めて臨床解剖学の生涯学習について考察する。